

第1回「重質油等高度対応処理技術開発」研究開発プロジェクト
終了時評価検討会
議事録（案）

1. 日時 平成29年1月25日（水）13:00～14:40
2. 場所 経済産業省別館11階1111各省庁共用会議室
3. 出席者

（検討会委員）[敬称略・五十音順、※は座長]

- ※小野崎 正樹 一般財団法人エネルギー総合工学研究所 理事
小林 康 東洋エンジニアリング株式会社エンジニアリング本部プロセスシステムエンジニアリング部 担当部長
里川 重夫 学校法人成蹊学園成蹊大学理工学部物質生命理工学科 教授
関根 泰 学校法人早稲田大学先進理工学部応用化学科 教授
辻 裕一 学校法人東京電機大学工学部機械工学科 教授

（研究開発実施者）

- 上小澤 哲人 一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 部長
豊岡 義行 一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 ペトロリオミクス事業統括リーダー
大橋 洋 一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 主任研究員
高井 康之 一般財団法人石油エネルギー技術センター自動車・新燃料部 主任研究員

（事務局）

- 資源エネルギー庁資源・燃料部石油精製備蓄課
課長補佐 丸山 翔
係長 堀江 武弘

（評価推進課）

- 産業技術環境局技術評価室
課長補佐 村田 博顕

4. 配布資料

- 資料1 「重質油等高度対応処理技術開発」研究開発プロジェクト終了時評価検討会
委員名簿
資料2 研究開発評価に係る委員会等の公開について
資料3 経済産業省における研究開発評価について
資料4 評価方法（案）
資料5 「重質油等高度対応処理技術開発」研究開発プロジェクトの概要
（補足説明資料）
資料6 「重質油等高度対応処理技術開発」技術評価結果報告書の構成（案）

資料7 評価コメント票

質問票

参考資料1 経済産業省技術評価指針

参考資料2 経済産業省技術評価 指針に基づく標準的評価項目・評価基準

参考資料3 25年度中間評価報告書（概要版）

5. 議事

(1) 開会

事務局（堀江係長）から、出席委員・事務局・オブザーバーの紹介が行われた。
委員の互選によって、小野崎委員が本検討会の座長に選出された。

(2) 評価検討会の公開について

事務局から、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、会議、配付資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

(3) 評価の方法等について

事務局から、資料3、4により、評価の方法等について説明がなされ、特に質疑応答がなく、了承された。

(4) プロジェクトの概要について

事務局（堀江係長）及び研究開発実施者（豊岡氏、大橋氏）から、資料5により、「重質油等高度対応処理技術開発」研究開発プロジェクトの概要について説明があり、以下の質疑応答がなされた。

【小野崎座長】説明いただきました「プロジェクトの概要」について、ご意見・ご質問等がございましたら、お願いします。

【関根委員】実証技術開発テーマから基盤技術開発テーマへの成果のフィードバックの有無を教えてください。

【研究開発実施者】一例をあげると、実証を通じて明らかになった触媒劣化に関する課題を基盤技術の反応モデリング技術にフィードバックしている。

【里川委員】開発した新化学式（JACD）は、触媒反応分析へどのように応用していくのか。

【研究開発実施者】開発した分子反応モデリング技術と組み合わせて、ハンセンパラメータ指数を使い、関数によってJACDの式に入れていく。この手法を用いて、継続的に研究していくことになる。

【辻委員】重質油は産地によって違うもの。どこのものなのか。

【研究開発実施者】全石油成分データをもちいて、原油をしぼりこんでいるが、超重質原油と呼ばれるものでやっている。

【辻委員】プロジェクトの終了後は、導入した設備はどう活用するのか。

【研究開発実施者】基本的には、次期プロジェクトで活用していくことになる。その後は、

石油各社が使うのか、どうするかはMETIと相談していきたい。

【小野崎座長】石油の詳細な構造解析データは、非常に貴重なものである。今後も有効利用できるようにしっかり管理を行っていくことが重要なので、しっかり進めてほしい。

【研究開発実施者】承知した。

【小林委員】今までのシミュレーターは疑似成分をJACDに入れて設計している。実際に解析して活用するとなると、シミュレーション技術はどのようにして行うのか。

【研究開発実施者】JACDは式である。これをMCAMに入れていく。疑似成分の近いところに、何万という分子構造からランピングしていく方法をとっていく。それを、シミュレーションに使用していくことになる。

【小野崎座長】皆様、ありがとうございました。それでは、以上で質疑を終了します。

(5) 今後の評価の進め方について

事務局から、「資料7 評価コメント票（評点シート含む）」について説明があり、評価コメント票の提出期限を平成29年2月6日とすることを確認した。

また、次回の第2回評価検討会を平成29年2月上旬に開催予定とした。

(6) 閉会

以上